



長産支第195号の2  
令和6年8月28日

長岡商工会議所  
会頭 大原 興人 様

長岡市長 磯田 達伸

長岡市政に対する要望について（回答）

日頃より、経済対策に御尽力いただくとともに、市政に対して多大なる御協力と御理解をいただき厚く感謝申し上げます。

さて、貴商工会議所から御提出いただいた、令和6年8月9日付け要望書につきまして、別紙のとおり回答いたします。

担当：長岡市 商工部 産業支援課  
長岡市大手通2-6 フェイクス大手イースト  
長岡市役所大手通庁舎6階  
電話 0258-39-2222 / FAX 0258-36-7385  
E-Mail syougyo@city.nagaoka.lg.jp

令和6年8月28日

## 回 答 書

「選ばれるまち長岡」へ向け、本市が「保育の質」全国1位、「子育てしやすい街ランキング」北信越1位の評価（日本経済新聞社と日経BPの情報サイト「日経x woman」の調査）を得たところです。子育て支援や保育の充実に加え、今後も若者や女性が能力を存分に発揮できる働く場の創出を図り、人と企業から選ばれるまちづくりを進めてまいります。

長岡版イノベーションが目指す施策展開については、シリコンバレーや深圳がそうであるように、4大学1高専との協創やモノづくり産業の強みに加えて、外に開かれたオープンな都市としての、デザイン思考、起業家精神、女性活躍やダイバーシティといった取組みの強化にあります。

バイオ分野では長岡技大のCOI-NEXT、企業体のN.CYCLE、産総研やバイオベンチャーの実証実験など、新たな産学協創事業に挑戦してまいります。

日本初の「イノベーション地区」創設を目指し、内閣府、東京大学CREIと協定を締結。既にサテライトオフィス27社が進出し、「NAGAOKA WORKER」120人が市内でリモートワークを行うなど、今後さらに、次の再開発事業の糧となる企業誘致を積極的に進めます。

ハローワーク機能を備える「ミライエ長岡」を中心に、人材確保に対応した高校生の地元就職とUIターン施策を拡充してまいります。延べ50人を超える地域おこし協力隊や、モンゴル・ベトナム・キルギスなどの外国人材の受入は、市内企業との連携によるビジネスの創出も大いに期待するところです。

交流人口拡大には、分野横断的に施策を組合せた新たな魅力創出や、長岡花火等の消費者データの活用による効果的なアプローチが重要だと考えています。アオーレ長岡やミライエ長岡、ハイブ長岡といった施設を有効活用するとともに、コンベンション機能が増す体制強化を図ってまいります。

引き続き、この秋から本格検討が始まる「次期総合計画」の策定を通じて、産業界の皆さんともしっかりと議論を重ねてまいります。

## 1 人手不足への対応に向けた多様な人材確保・育成への支援

- ・企業の働きやすい社内環境整備を後押しするため、働き方改革相談員による企業への個別のコンサルティングなどを実施します。また、テレワーク等の柔軟な働き方を首都圏企業と同待遇で実現できる「NAGAOKA WORKER」の取り組みやリスキリング支援などを通じて、若者や女性の地元定着を推進してまいります。
- ・1日単位、数時間単位で働きたい人と人材不足に悩む企業をつなげる「ながおかマッチボックス」を昨年9月から導入し、797人の雇用が実現しました。
- ・インターンシップの推進や企業見学会を通じた企業と学生のマッチング機会の提供、就職ガイダンスの開催などにより企業の若者人材確保を図ってまいります。
- ・大手人材関連企業が保有する若者のU・Iターンや中途採用の希望者に対する採用ノウハウやデータを、市内企業等の魅力創出・情報発信の強化や人材採用戦略に活かし、企業の人材確保を支援してまいります。
- ・市内企業と学生双方が出展し交流する展示会「マッチングハブ長岡」やミライエ長岡NaDeC BASEで気軽に交流するイベント等を開催し、若者が市内企業を知る機会を作ります。
- ・少子高齢化と人口減少に伴う産業界の人手不足と生産性向上の課題に対応するため、NPO法人長岡産業活性化協会NAZEやながおかDXセンターの取組みを通じて、市内製造業のデジタル化を伴走型で支援するほか、デジタル化による新たなビジネス転換などを目的とした設備等の導入を支援するための補助金を交付おります。
- ・ミライエ長岡東館の整備に向けて、ハローワークやジョブカフェ、若者サポートステーションなどの雇用関係機関や、政府系金融機関など一体となって、地元企業の雇用促進と人材確保策のさらなる強化を図ってまいります。
- ・外国人材の確保につきましては、外国人材活用推進アドバイザーによるコンサルティングなどを行うほか、令和6年度から新たに専任の外国人受入サポーターを配置し、伴走型支援を行っております。また、4大学1高専等の国内留学生やモンゴル・ベトナム・キルギスなどの学生インターンシップ促進を通じて採用と定着促進を図るとともに、国際交流センター「地球広場」において、日本語学習や住環境に関する支援、コミュニティの形成など、外国人が住みやすい多文化共生のまちづくりを目指します。

## 2 交流人口拡大に向けた誘客促進への取り組み強化

- ・観光産業は社会経済情勢の影響を受けやすく、旅行形態やニーズも絶えず変化しているため、観光誘客につなげるためには、市場の変化に応じた新たな試みを臨機応変かつ継続的に取り組む必要があると認識しております。

そのため市は、関係機関と連携し、旅行者のニーズの把握による再訪したくなるコンテンツの造成、点でなく面での地域の稼ぐ力の育成、がんばる事業者への伴走支援により、観光産業の競争力を強化するとともに、観光資源の「魅力の向上」と「情報発信」による誘客の促進を図っております。

- ・イベント等の開催誘致につきましては、長岡観光コンベンション協会を中心に、市内の関係団体との幅広い連携により、本市のアクセスや施設の良さ、高度な学術機関の集積、食や地酒によるおもてなしなど、長岡の優位性について、商談会などを通して関係各所に引き続きPRしてまいります。
- ・受入推進体制の強化につきましては、地域資源の磨き上げと情報発信による、観光産業の競争力向上とさらなる誘客を図るため、長岡観光コンベンション協会の機能強化を進め、全国的にみられるDMO設立を視野に、多様な団体と連携したオール長岡での新たな推進体制の構築を目指してまいります。
- ・マーケティングデータを活用した新たなプロジェクトといたしまして、楽天グループ株式会社との連携事業である「ふるさと納税」、「長岡市公式ショップ丸ごとながおか」のほか、「観光誘客」などへの関わりを誘発させるプロモーション連携を、長岡花火を起点として行うことで、経済波及効果や交流人口の創出を目指します。

### 3 中心市街地活性化と魅力あるまちづくり推進

- ・中越圏域の中心である長岡駅周辺の中心市街地では、ミライエ長岡を新しいまちづくりの拠点として、多様な人が集い、交流しながらイノベーションを生み出し、先端技術を生かせる人材の育成や若者の起業、創業の促進、新たな産業の創出などにより、地域経済の活性化を図ることを目指し、産学公民の連携によるまちづくりに取り組んでおり、その効果や成果が市域全体、全国、世界に広がることで、本市の持続的な発展につなげていきたいと考えております。

- ・現在整備を進めているミライエ長岡東館は、貴会議所の提案である「長岡産業ビジネス交流館（仮称）」のコンセプトを最大限生かし、地域経済をけん引する産業振興の拠点として、企業の拠り所となることを目指しています。

令和8年開館予定の東館には、中・高校生が気軽に集まり、自由に過ごせる居心地のよい居場所として「ティーンズラボ（仮称）」を整備いたします。やりたいことに挑戦できる場、個性や未来への可能性をのばす場として、想像力や意欲を高めるきっかけになるようなプログラムを実施し、若者定着やU Iターンを促進するとともに、ミライエ長岡の活用等による企業の魅力発信を通して、若者の人材確保にもつなげたいと考えております。

西館のNaDeC BASEや互尊文庫と、産業を総合的に支援する東館の機能が結びつき連携することで、本市の商工業の発展につなげたいと考えております。

- ・こうした一連の取組みの基本となる「長岡市中心市街地活性化基本計画」につきましては、これまでに貴会議所が参画する中心市街地活性化協議会と連携を図りながら、3期16年にわたり取り組んでまいりました。第4期計画につきましても、中心市街地活性化協議会をはじめ、広く市民の意見を取り入れながら計画を取りまとめまいります。

- ・第3期総合戦略について、地域活性化委員会の皆様からは、令和5年度から4回にわたり総合戦略について企業経営者の視点で貴重なご意見を賜るとともに、市職員との活発な意見交換により市の課題や政策について議論いただきました。

要望のありました地域活性化委員会での貴重なご意見のほか、各界の有識者や市民の声を踏まえながら策定を進め、著しい人口減少に歯止めをかけ、地方創生の実現を図り、長岡市が「選ばれるまち」として拠点性と都市機能を高められるよう、委員会の皆様をはじめ、産業界の皆様と一緒に議論・検討を重ねてまいります。